

令和4年度 第2回 第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】	令和4年7月22日（金）	午後3時～5時
【場 所】	クリーンセンター2階	見学者ホール
【出席委員】	山谷修作（委員長）、田口誠（副委員長）、朝生剛、加藤慎次郎、志賀和男、 （敬称略）杉山日菜子、中村充、長山楓、西上原節子、三原美菜子、村井寿夫	
【事務局】	ごみ総合対策課長 ほか	
【欠 席】	花俣延博、茂木勉、稲垣貴之	
【傍 聴】	なし	
【配付資料】		
資料 1	武蔵野市一般廃棄物処理基本計画における基本理念・基本方針の検討結果について	
資料 2	武蔵野市のごみ処理の課題抽出・整理	
資料 3	武蔵野市一般廃棄物処理基本計画改定の内容について（骨子）	
資料 4	生活排水処理基本計画（原案）	
資料 5	食品ロス削減推進計画（原案）	

1 開会

【事務局】定刻となったので会議を始める。

2 議題

（1）新計画の基本理念、基本方針の検討結果について

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】資料1についての説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【A 委員】基本理念について、現行案の「持続可能なまち むさしの」では、「何の持続可能」なのか読み取りづらいためもう少し具体化してほしい。

【委員長】「持続可能な」の前に「ごみゼロを目指して」と入っているため「ごみの減量によって持続可能なまちを作る」という流れになっている。

【D 委員】基本理念の「みんな」という言葉が気になる。「みんな」は口語調なので、「皆（みな）」に変えるべきである。市の基本理念とした冊子に掲載するにあたり、「皆（みな）」という文語体にすべき。

【委員長】D委員の意見に対して他の委員はいかがか。市では親しみを持てるように「みんな」とした。

【副委員長】「皆（みな）」はあまり使わない印象がある。

【F 委員】私は「みんな」の方が市民により通りやすいと思う。

【委員長】ありがとうございます。では、事務局案の基本理念・基本方針でよろしいか。

【全委員】異議なし。

【委員長】ほかに質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

(2) 課題の抽出と整理について

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料2についての説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【J 委員】資料2の2頁のごみ排出量の推移において、平成30年までは直線的に減少していたが、令和に入ってから増加・横ばいの傾向にある。次期計画では現計画と異なる目標を立てる必要があるとの理解で良いか確認したい。

【事務局】令和10年度に1日当たり588gとした現計画では、令和3年度は計画値で619gであるが、実績値は637gで上回っている。新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、そのことを考慮に入れる必要がある。

【A 委員】ごみの減量は、クリーンセンター建設時も目標として掲げている。確かに人口増加と新型コロナウイルス感染症の流行は考慮に入れることができるが、これらについて同条件であるはずの多摩地域の中で比較すると、更にごみ量を減量している自治体もある。また、基本理念文中に「ごみゼロを目指して」とある通り、ごみゼロを目指すべきではないか。今後のクリーンセンターの在り方も含めて、次回ごみ量の目標を提示してほしい。

【委員長】他市と比較して武蔵野市のパフォーマンスが劣ることはあってはならない。どのような施策をもってごみを減らしていくかが重要になってくる。

【事務局】資料2の9頁の他市との比較から、武蔵野市は最終処分量の少なさと資源回収率、人口一人一日当たりごみ総排出量は優れているといえる。その一方で人口一人当たりの年間処理経費や、最終処分減量に要する費用についてはコストが高いと分析された。

【委員長】何か意見・質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

(3) 新計画の改定の内容について（骨子）

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料3の説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【A 委員】資料3の③「プラスチック資源循環促進法を考慮した研究・検討」について、プラスチックを一括回収することによる燃焼効率への影響はどのくらいか。また、プラスチックのリサイクルにおける市の方向性を教えてほしい。

【事務局】プラスチック製品を分別収集する場合の影響は現在調査中だ。プラスチック製品を燃やすことで熱量が増加しているのが現状である。減少するとクリーンセンターの運転等に影響が出る可能性がある。

【委員長】燃やすごみが減ることは良いと思うが、プラスチックを一括回収にして発電量が減ることと、電力の売却による売却益の減少も考えられる。

【事務局】クリーンセンターで作られた電気は「地産地消」という形で周辺公共施設に送電し、余った分は売却している。夜間は、自己託送という形で市内小中学校18校に配分している。さらに蓄電池を活用して夜間貯めたものを日中使用している。

- 【事務局】プラスチック製品を分別収集した場合の①クリーンセンターでの処理に関わる影響、②プラスチック製品を中間処理施設に運んだ場合の、運搬車両の台数への影響について、事業者に調査を依頼している。
- 【委員長】プラスチック製容器包装は、容器包装リサイクル協会のルートでリサイクルを行っているが、それ以外の製品プラスチックについては市の負担になるという仕組みのためコスト増加の懸念も出る。
- 【D 委員】市民のプラスチックへの分別の意識は高いと感じる。基本理念に「ごみゼロを目指して」とあるため市民団体を通じて市民を巻き込みながら啓発すべきだ。
- 【委員長】いわゆる「プラ新法」ではリサイクルとリデュースに重点を置いており、カトラリー等が有料になる動きがある。その点事務局で把握していることがあれば教えてほしい。
- 【事務局】市で把握していることはない。国や業界団体の動向を注視している。
- 【I 委員】武蔵野市ではイベントが非常に充実しているが、そこで使用するプラスチック容器等をイベントの主催者と連携して減らす取組ができると、市民の行動変容につながると思う。
- 【委員長】最近では学園祭でもリユース食器を使用することが増えているし、市もクリーンむさしのを推進する会と連携した取組がある。
- 【F 委員】例えば、例年4月開催の「桜まつり」は新型コロナウイルス感染症のため3年続けて中止になっている。前回の「桜まつり」の来場者数が5万人程度と記憶しているが、一市民団体で扱える規模ではない。数万人規模の場合、市民、市民団体、事業者、行政の連携が必要だ。
- 【E 委員】先日、市内のビールフェスタに参加したが、どのブースでもプラスチックの使い捨てコップを使用していたため、大変心苦しかった。大きなイベントが再開されるのは嬉しいが、新型コロナウイルス感染症の対策も兼ねると難しい部分もあると思う。マイコップを持参すると値引きされるような仕組みがあると環境に意識の高い人も参加するのではないかな。
- 【H 委員】私は量り売りの店で働いているが、プラスチック容器を使い捨てていることが気になる。店でマイボトルやマイバッグを持参してもらうことを考えたが、新型コロナウイルス感染症対策のため上手くいかない。プラスチック容器を持参したら値引きや、ポイント付与をすることで消費者の行動変容を期待できるのではないかな。
- 【G 委員】ごみ減量は市民の意識だけでは解決しづらいため、各団体が連携を強化する必要がある。
- 【委員長】市民団体に若年層の参加が少ないのは問題だ。若年層にいかにごみ減量やリデュースに関心を持ってもらうかが重要だ。
- 【K 委員】多摩地域の自治体で新たに製品プラスチックを分別収集するという話は今のところ聞いていない。その要因として、収集車の台数で換算すると2割から3割、最低でも1割は製品プラスチックがあると予想され、中間処理施設もその分増強が必要になるからだ。
- 【副委員長】イベントによってプラスチック対策のための取組にムラがあるのは望ましくない。環境分野以外のイベントであっても、各団体が連携して対策を行うべきである。

【委員長】他に意見・質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

(4) 食品ロス削減推進計画・生活排水処理基本計画について

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料4の説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【D委員】資料中の組成分析結果のグラフについてばらつきがあるのは、条件を一定にして調査を行っていないのではないか。また、数値目標は、東京都は万トンであるのに対し、武蔵野市はトンであるため、詳しい説明が必要である。

【事務局】組成分析結果のグラフについては、地域や検体数等を統一している。ばらつきの影響と考えられるのは、検体数量と思われる。現在、境、中央、吉祥寺の3地域から集めたものを1検体とし、縮分している。検体数が1つであるため、中身によって結果が左右される。一方、数年間の平均という形にすれば結果が安定すると考えている。資料の詳細については資料編に挿入することを検討している。

【委員長】食品ロス削減推進法が策定され、法的な裏付けや国の指針もできた後の令和3年度調査が有効である。令和3年度以降のデータの積み上げにより、実態に近い調査になるのではないか。

【A委員】本日欠席の市内事業者の委員にも意見を聞き、計画に反映してほしい。

【委員長】もともとである。次期計画での食品ロス削減推進計画の策定は多摩地域では先駆けた取組なので、良い計画を策定するためにも事業者の意見が必要だ。武蔵野市では事業系可燃ごみをかなり詳しく調査を実施している。

【事務局】大型事業者については年に1～2回立ち入り検査を実施している。食品ロスに特化しているわけではないが、コンスタントな実施ができている。

【事務局】目標達成に向けた取組や、各主体の行動指針についてご意見を頂きたい。

【A委員】給食調理場に子どもたちが給食の残飯を持っていくなど、食育と絡めた施策ができると良い。

【委員長】給食調理場の残飯はどのように処理しているのか。

【事務局】残飯は大田区にある食品リサイクル工場で処理をし、飼料に変わる。油は有価売却している。

【委員長】家庭の食品残さと比較すると給食の残飯はリサイクルすると食品としての質が高い。

【I委員】てまえどりPOPを見たことがなかったが、どこで行ったのか。また、環境への意識が低い方が手前から取るには、値引きなど特典がないと進まないと思う。スーパーやコンビニエンスストアは、市が行う取り組みをアピールするのにとても良い場所だ。

【事務局】てまえどりPOPは、昨年10月に市内に小売店のあるイトーヨーカドー、いなげや、たいらや、市内のセブンイレブン、ファミリーマート等15事業者に協力いただき、掲載を行った。

【委員長】POPやシールは啓発の材料として重要で、毎日見ることで頭の中に刷り込まれる効果があるという。

- 【G 委 員】 外食、宴会時の「食べきり」については、飲食店側が、SNS 等に投稿してもらうために写真映えを狙い、食べきれない量を提供することがあるのではないかと。市民に食べきりを促すだけでなく、飲食店側に食べきれぬ量の提供を促すことも必要である。
- 【委 員 長】 社会の外部要因に応じて柔軟に対応する必要がある。多摩地域の半数が行っている食べきり協力店制度も有効な方法である。
- 【E 委 員】 割引シールがついた商品を購入したり、リメイクレシビ紹介やイベントの開催を促進するのも一つの方法だ。
- 【委 員 長】 何か意見・質問はあるか。特にないようなので次に進む。
- 【全 委 員】 異議なし。

3 その他

- 【委 員 長】 事務局から何かあるか。
- 【事 務 局】 議事要録については作成の上、委員の皆様にご確認を頂くことをお願いする。第3回は9月26日（月）に開催予定である。
- 【委 員 長】 委員の皆様からは、全体を通して何かご意見・ご質問等はあるか。
- 【E 委 員】 むさしのエコボの拡充に伴い取引量が増加しているが、手続きをオンラインにする等、より効率的にできないか。
- 【事 務 局】 担当に伝え検討する。
- 【委 員 長】 何か全体を通じて意見・質問はあるか。
- 【全 委 員】 異議なし。

4 閉会

- 【委 員 長】 以上で本日のごみ市民会議を終了する。